

プロジェクト G

包括的ケアラー支援における支援者間連携に関する基礎的研究

研究体制

研究リーダー: 常盤 文枝(看護学科教授)

研究メンバー: 上原 美子(共通教育科教授)、浅井 宏美(看護学科准教授)、辻 玲子(看護学科准教授)、黒田 真由美(看護学科助教)、水間 夏子(看護学科助教)

アドバイザー 伊藤 善典(社会福祉学科教授)

1. 研究背景

超高齢化と人口減少により、家族ユニットが不安定化し、誰もがケアラーになりうる時代に突入している。埼玉県は、ケアラーを支援する条例として国内で初めて「埼玉県ケアラー条例」(2020(令和2)年3月)を制定した。同様の課題を有する諸外国では、ケアラー支援が先行しているが、日本では包括的なケアラー支援の立法化や体制はまだ整備されていないのが現状である。ケアラーCarer とは一般的にはなじみがなく、これまでの言葉に置き換えれば、介護者、養育者といった用語に相当するインフォーマルなケアの担い手を示す。ケアラーの定義は、非常に柔軟かつ包括的で、対象者横断的であるため、関係する支援者のコンテキストによって、ケアラーの発見やニーズの掘り起こし、アセスメント等の方略に差異が生じることが推察される。ケアラー支援の先進事例である英国においても、ケアラー支援のプロジェクトの推進にあたり、関係する職員等間の連携が課題として挙げられている。ケアラーに関する諸課題は複合的であり、多くのフォーマルケア従事者やボランティアが支援者として関わることが想定される。このように支援者間の認識や連携には未だ課題が存在することが考えられる。

2. 研究目的

本研究では、支援者間の連携を促進し、効果的な領域横断的アプローチの方略を検討することを目的とする。

3. 研究概要

研究目的を達成するための基礎的研究として、①ケアラー及びケアラー支援の概念分析、②概念分析に基づく支援者間の連携に関する課題の整理、③ケアラー・アセスメントツール(試案)を作成について検討する。本研究の成果は、多様性を包含している概念を可視化し、市民や専門職等への情報提供や意識改革の一助となる。また介護を担う人々に関する研究を、ケアラーに関する研究として再構成することを促し、今後のケアラー研究の基礎的な方向性を提供したい。